

### △植物

筑波山はよく知られているとおり植物の宝庫であり、ツクバキンモンソウ、オオバウマノスズクサ、ハクサンオミナエシ、ナンタイシダ、コケシノブ類、コウヤノマンネンゴケその他多くの貴重種が生育している。

中腹付近に見られる各種のカシヤシイを主とする照葉樹林および山頂付近のブナ林はそこに混生する珍種だけでなく、群落全体が生物学上貴重なものである。またこのような植物分布の特徴は筑波山だけにとどまらず、足尾山、加波山、吾国山等山系全体にほぼ共通して見られる。

### △動物

筑波山系は動物にとつても宝庫である。昆虫の種類も多くを数え、分布上貴重なものが含まれる。またムカシトンボのように学術上貴重な種も息息していると言われる。ハコネサンショウウオ、ナミウズムシ、サワガニも県南地方においては貴重である。鳥類も多く、八五種が観察されている。

### △総合所見

上述のようにこの山系は生物学上極めて貴重なところであり、また地質学的にも貴重である。

らに、この山系は桜川、恋瀬川水系の重要な水源地帯でもある。現在、山系全体としてはさほど開発が進んでいないが、部分的にはかなり無秩序な開発が行われており、減少しつつある動植物もある。森林の伐採、岩石採取、観光開発等が、このまゝ進められれば、貴重な動植物が失われるだけでなく、県南地方の環境保全の面でも重大な悪影響が現われるものと考えられる。また最近「北筑波稜線林道」の名目で湯袋から足尾山、加波山、吾国山を通る自動車路の建設計画が具体化しているときが、この計画は自然財保護、環境保全の立場からはぜひ中止すべきことである。もしこれが実現した場合、自然破壊およびそれによる損害がどの程度のものになるか、推測は極めて困難であるが、非常に大きなものになることは確かであり、それが現実のものになってから、もとの状態に復元しようとしても、もはや不可能であることも確実である。

「自然はきわめて多様であり、そこに生きる数百万種の動物、植物、微生物は土や水、空気と密